

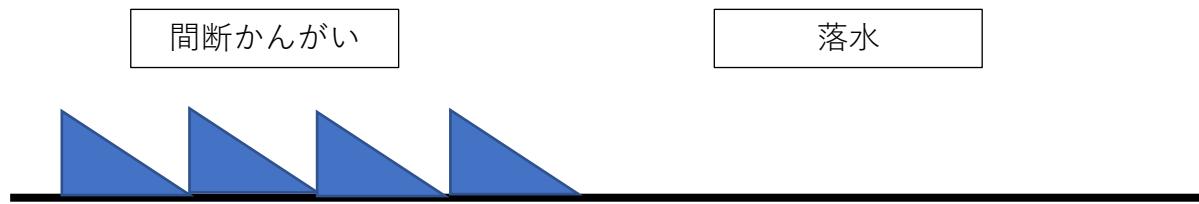


## ～第5号～ 稲刈り編

8月は、最高気温35°C超え（不稔穂の発生増）が25日間、  
日平均気温27°C超え（白未熟粒の発生増）が24日間ありました。  
降水量は平年比約88%と少なく、今後の水不足が懸念されます。

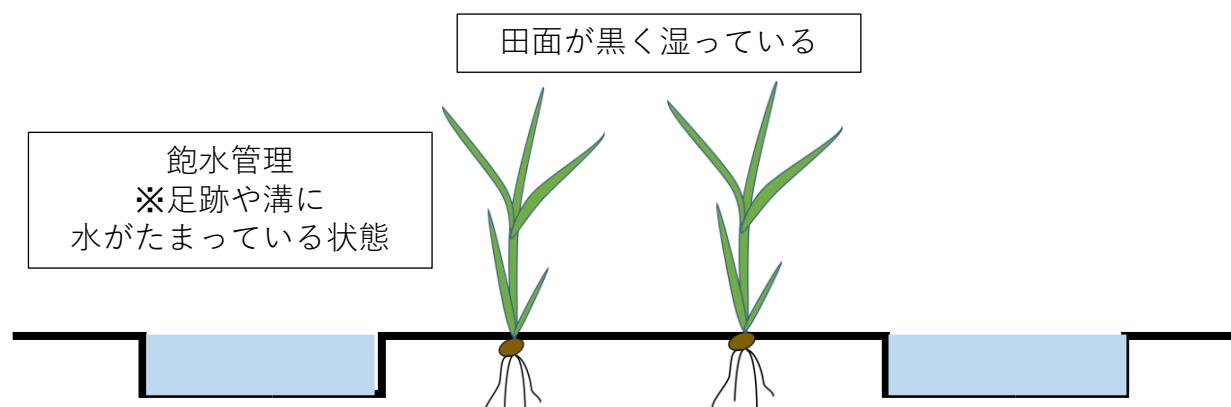
### 1. 稲刈り期の水管理

#### 【通常時】



- ①穂を充実させるためには、出穂から30日程度は水が必要なので、  
間断かんがいを行う。
- ②出穂後30日をめやすに落水する。  
コンバイン収穫ができる程度まで、地面を固める。  
※落水日は、ほ場の土質・天候により調整する。  
※落水が早すぎると、胴割れ米が増え、品質が低下するので注意

#### 【節水栽培（高温・干ばつ時）】



- ①水がない場合は常時湛水せず、飽水管理（別名：ひたひた水管理）  
を行う
- ②最低限、土が黒く湿っている状態を維持する

## 2.刈取り適期（ヒノヒカリ・きぬむすめ）

(1) 刈取適期 7~10日前

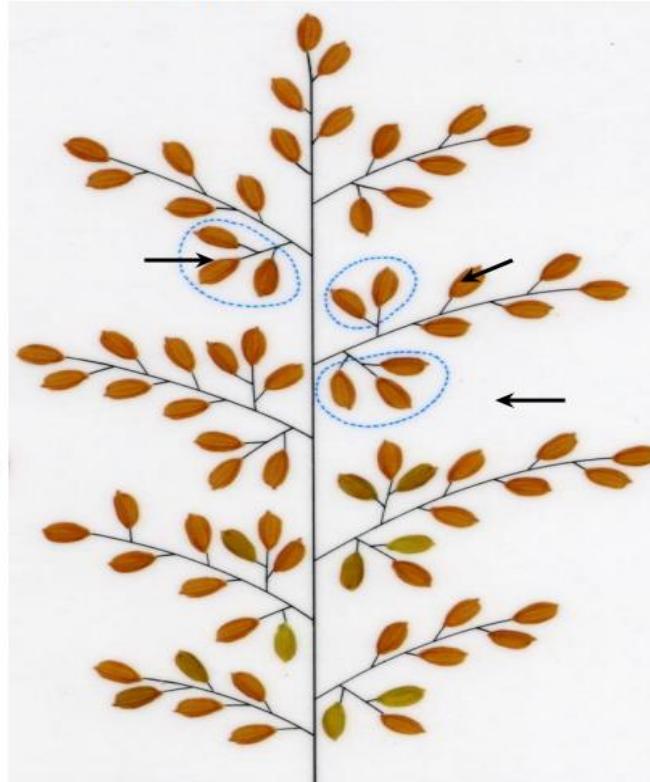
(収穫率 50~70%)



**矢印** 点線内の穂（上・中位1次枝梗）は黄化しているが、残りの点線内の穂（2次枝梗）はまだ緑色

(2) 刈取適期

(収穫率 85~90%)



**点線** 1の2次枝梗が黄化した時

出典：JA全農

	青穂の割合	出穂日からの日数	出穂日からの積算温度	穂軸の熟れ
きぬむすめ	10~15%	35日~43日	1050°C~1100°C	先端~1/3が黄化
ヒノヒカリ	10~15%	43日~48日	1000°C~1050°C	

## 3.ごま葉枯病

病斑

激発時 穂枯れ

- 砂質ほ場、肥料分がないほ場で発生しやすい
- 多発すると穂枯れを起こす



### 【対策】

- 穂肥
- 土壤改良資材、ケイ酸質肥料の施用
- 種子消毒
- 水管理で根の活力を保つ